

1月30日懇話会資料

文中の赤字部分は、委員の皆さんに分担執筆いただいた箇所です。
文中の青字部分は、第6回懇話会で出たご意見を踏まえた加筆・
修正箇所です。

(仮) 区民と区との協働を進める懇話会
報告書
(素案)

平成21年3月

区民と区との協働を進める懇話会

目次

はじめに.....	2
1. どうして懇話会が設置されたか.....	3
2. 懇話会での検討の経緯.....	4
(1) 懇話会で検討した範囲.....	4
(2) 「協働」って何だ?.....	5
(3) 協働を進めていく際の課題と取り組みの方向性.....	9
3. 協働を進めるために.....	11
(1) 具体的な取り組みのアイデア.....	11
(2) 優先して取り組むことが期待される区の取り組みの方向性.....	21
4. 懇話会への参加を通して得られた成果.....	25
(1) 多様な協働とはどのようなものを共有できた.....	25
(2) 普段接する機会が少ない団体の活動や思いを知ることができた.....	25
(3) 具体的な取り組みにつながった.....	25
5. 多様な協働をさらに進めていくために.....	26
(1) 協働を進めていくために必要な環境づくり.....	26
(2) 区民活動団体がお互いを知る場づくり.....	26
(3) 「品川らしい」協働のあり方の模索.....	26
おわりに.....	27
参考資料.....	28
(1) 区職員による検討の経緯.....	28
(2) ボランティア団体・NPO法人等アンケート調査.....	29
(3) 「区民と区との協働を進める懇話会」委員名簿.....	31
(4) 「区民と区との協働を進める懇話会」各回の検討内容.....	32

はじめに

- ・1頁程度
- ・中村先生に執筆依頼

本報告書に記載されているコラムは、懇話会の委員が自由な発想で「こうなったらいいな」という思いを書いたものです。各意見の具体的な実現の可能性については、今後改めて議論を進めていく必要があります。

1. どうして懇話会が設置されたか

「区民と区との協働を進める懇話会」は、協働を進めるための具体策のあり方を検討するために、品川区から区民活動団体への呼びかけで設置されました。

今年、品川区でこのような懇話会が設置された背景には、新基本構想の中で「協働」がおおきな柱として位置付けられたことがあります。また、区内のボランティア団体・NPO法人等へのアンケート調査¹から区民活動支援策への期待が大きいことが分かり、区職員による庁内での検討が進んだことも踏まえて、区民活動団体との意見交換が必要になったことが背景にあります。

こうした背景を踏まえ、協働の推進へ向けて活動団体の活動基盤を支えるために具体的に何が必要か、区民と区との協働のあり方はどのようなものかを検討するため、町会・自治会、ボランティア団体・NPO法人等、商店街、事業者、有識者、区のそれぞれから、区民と区との協働の実践経験を持つ19人の委員が選ばれ、全部で8回にわたり議論を行いました²。

(注)第6回懇話会での意見を踏まえ、懇話会の位置づけが何なのかを加筆しました。

「区民と区との協働を進める懇話会」での言葉の定義

区民

…品川区内で「在住、在勤、あるいは在活動」している個人。

区民活動

…地域の課題を解決するために区民が自発的に取り組む活動。

区民活動団体

…町会・自治会、ボランティア団体・NPO法人等、商店街、事業者など区民活動を行う団体の総称。

¹ 平成19年に、品川区内に所在するボランティア団体・NPO法人合計251団体を対象に、品川区が実施したものです。詳細は参考資料をご覧ください。

² 区職員による検討の経緯、「区民と区との協働を進める懇話会」委員名簿と各回の検討内容は、参考資料をご覧ください。

2 . 懇話会での検討の経緯

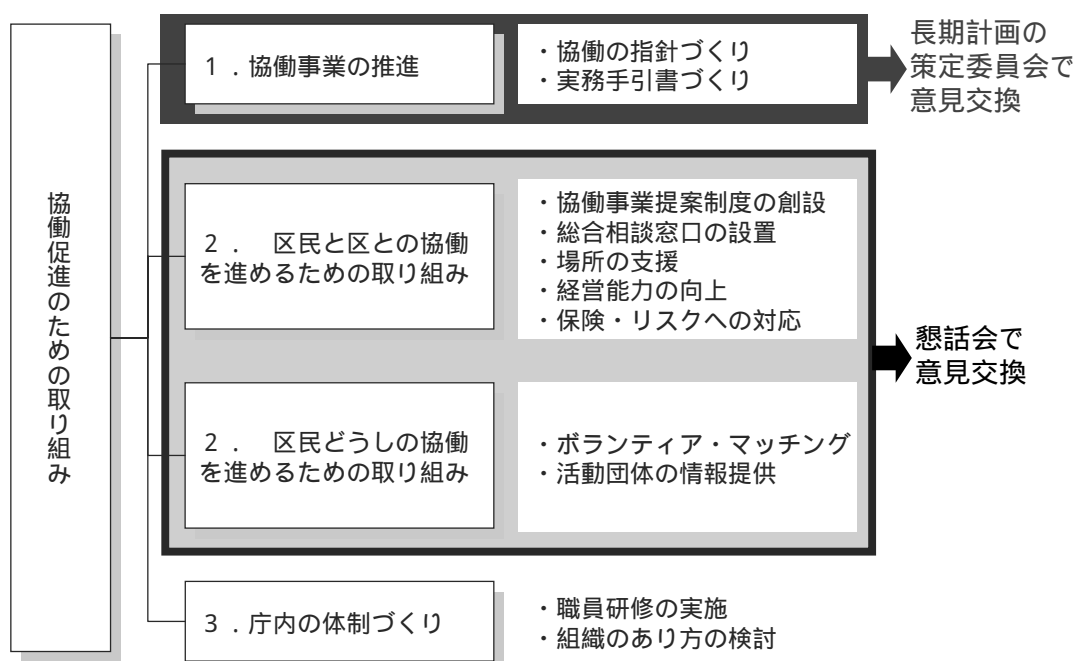
(1) 懇話会で検討した範囲

懇話会での検討を進めるにあたり、第1回の懇話会で、この懇話会で検討する範囲について意見交換を行いました。

その結果、「区民どうしの協働」(例えばNPO どうし、NPO と企業の協働など)は区が関わらなくても円滑に進めていくことができるという意見が出た一方で、「区民と区との協働」は、「区民活動団体と区との意思疎通を図りにくい」、「区民活動団体の取り組みに対する区職員の理解が得にくい」といった難しさが指摘されました。したがって、この懇話会では、「区民と区との協働」を進める上で区に期待する取り組みについて意見交換を始めることとしました。

しかし、検討を重ねるうちに「区民どうしの協働」、中でも普段接する機会が少ない団体どうし(例えば町会とNPO、NPO と企業など)の協働については、「実はお互いのことをほとんど知らない」、「団体の特徴が異なるので、意思疎通を図りにくい」といった難しさがあることが分かり、最終的には「区民どうしの協働」を進める上で区に期待する取り組みも含めて意見交換を行うこととしました。

図表 1 「区民と区との協働を進める懇話会」で意見交換した範囲



(2) 「協働」って何だ？

懇話会での検討を始めた当初は、「協働」とは「区民、町会・自治会、NPO・ボランティア、学校、企業、区などの様々な主体が、お互いの立場や特性を尊重しあいながら、連携、協力して継続的にまちづくりを進めていくこと」であるという、区職員による検討結果を受けつつ、ひとまず、区との「協働」に絞って意見交換を始めました。

しかし、懇話会に参加したそれぞれの委員が持つ協働の実践経験を語り合う中で、「区民どうしの協働」を含め、様々な「協働」の形があることが分かりました。また、「協働」に対する捉え方が、一人ひとり少しずつ異なることも分かりました。

懇話会では、「協働」には様々な形があることを共有した上で、それら全ての「協働」を進めていくための具体的な取り組みについて検討を進めました。

懇話会で出た協働の具体例

- (NPOと区との協働) ボランティア団体・NPO法人等が、自分たちの専門性を活かしてプログラムを企画し、区と共催して実施する。
- (企業と区との協働) 企業が、社会科見学に協力して子どもたちを受け入れる。その際に、仕事の様子などを収録したビデオを事前教材として制作し、理解を深める工夫に協力する。
- (企業と町会との協働) 町会が取り組む防犯ボランティアに、その地域の企業の社員も参加し、一緒にパトロールを実施する。
- (町会や企業と商店街との協働) 商店街が始めた地域の清掃活動に、町会や企業も一緒に参加する。

(注)「である」を「ですます」に変更しました。

<コラム 1> さまざまな立場から見た「協働」の例 ~ ボランティア団体・NPO法人等

当団体は企業OBが集まって設立されたNPO法人で、企業で長年培ったノウハウを活かして、小・中・高・大学などでの出前授業・キャリア教育支援やベンチャー企業/中小企業の経営支援などを行っています。



その一環として、ものづくりの面白さ・大切さなどを体感してもらえるプログラムとして小学生高学年を対象とした「ものづくり教室」を、自治体と企業とNPOとの協働で展開、現在品川区、静岡県沼津市、群馬県太田市、山梨県甲府市、山梨県中央市、岐阜県清須町、神奈川県平塚市などで開催しています。内容は、電子工作キットを組立・実際に走行させて自分たちの作った「もの」で楽しんでもらうというもので、生徒6名に1~2名のインストラクターがつき、自ら組み立てるのを支援する形でおこなうものです。

このプログラムは品川区で自治体と企業とNPOとの協働により始まりました。図書館との協働により夏休み等に図書館で子ども「ものづくり教室」を展開しており、今では、他都市にも広がってきています。たくさん子どもたちに体験してもらえよう、参画企業の拡大、インストラクターの養成、自治体からの更なる支援拡大に向けて活動していきたいと考えています。

(NPO法人コアネット 村山 勝彦)

<コラム 2> さまざまな立場から見た「協働」の例 ~ 企業

品川区東五反田に本社を置く当社ではCSR活動として、2006年より本社前の花壇の手入れを行っています。



業務終了後に花壇の枯れた花の摘み取りや周辺のゴミ拾い、花壇への水撒き等の活動を、その時々都合のつく従業員が自分の意思でボランティアとして参加しています。年2回、大きな季節の変わり目には、大崎地区のボランティア団体と協力して近隣企業、品川区民の皆さんや子供たちと一緒に花壇の模様替え作業も行っています。昨年、この取組みにより品川区より「しながわ環境大賞」を頂きました。

また、JR大崎駅周辺の企業や商店街の皆さんと一緒に行うイベント「しながわ夢さん橋」に自社の製品であるミニショベルを出展し、多くの子供たちに喜んで貰いました。今後も地域に根ざした企業として、協働の輪を広げて行きたいと思っています。

(コベルコ建機(株) 奥田 耕治)

写真を入りたいので、写真を出せる団体があれば、最終版で追加したいと思います。

コベルコ建機 写真

<コラム3> さまざまな立場から見た「協働」の例 ～町会

町会と区との関係は歴史的にも古く、昔から協働してきたとも言えます。町会は区から貴重な情報をいただき、それを会員に届けるという大事な役割を担いつつ、町内のコミュニケーションを



図ってきました。これはとても大事なことであると思っています。町会は大きく分けて、防災・防犯活動、地域のお祭行事、そして町会会員の福祉の向上という三つの役割を担っています。しかし、これらを円滑におこなうためには町会会員の協力がなければ出来ないことばかりです。いわば相互扶助の組織です。この相互扶助を高めるためには、まずは町会内の皆さんにお祭りに一人でも多く参加してもらい、楽しみながら町会活動への理解を深め、地域を盛り上げていってもらうことが大事だと思っています。

東品川一・三町会と他団体との協働例としては、町内にある台場小学校のPTAとのもちつき大会や、都営アパート自治会と一緒に夏のラジオ体操などです。今回、「区民と区との協働を進める懇話会」に参加して、今まで知らなかったNPO法人や、ボランティア団体、企業の方々のお話を聞く機会に恵まれました。北品川の商店街のなかではNPO法人が空き店舗を活用して様々な活動をしているのですが、今後、当町会会館などを活用して、たとえば高齢者を対象とした脳トレや筋トレなどの教室を開いて行くときに、NPO等のご協力をいただければ、よい協働事例になるのではと期待しています。

(東品川一・三町会 戸川 五郎)

<コラム 4> さまざまな立場から見た「協働」の例 ～ 商店街

五反田商店街は8年前より五反田地域での清掃活動を月1回（第二週の土曜日）に「クリーン五反田」として実施してきています。当初は商店街の会員だけで行ってきましたが、今では

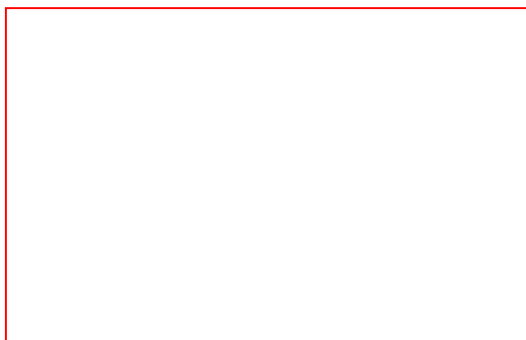


近隣の町会、日野学園の生徒会、ゆうぼうと、東急百貨店、また周辺の企業、大学生の参加が広がり、大きな活動に発展してきています。また、このように協力者が増加するに従い、集めるごみの量も多くなり、その処分に頭を痛めていましたが、幸い、品川区がゴミを一括して処分してくれることになり、心置きなく清掃活動ができるようになりました。今回、懇話会に参加して、協働のあり方を話し合う中で、この「クリーン五反田」がひとつの協働のあり方を示しているのではないかと強く感じました。

商店街が行うイベントには（１）商店街の販売促進に繋がるイベント（２）商店街の関わる地域の活性化、及び文化の発信（３）地域の安全や環境整備などのイメージアップの3つの要素があります。（１）の販促イベントは商店街にとっては死活問題として取り組みますが、（２）（３）については、商店街がその中核を担いつつも、近隣町会・自治会や学校、企業等と連携していくことが大切になります。また、今の商店街は、人材不足や活動資金不足などの慢性的な課題を抱えつつ、常に環境変化に対応することを求められています。したがって、商店街が地域のために取り組むものに対して区としても側面から応援していただければと思っています。

（五反田商店街振興組合 杉江 烈）

写真を挿入したいと思います。写真の提供をお願いします。



(3) 協働を進めていく際の課題と取り組みの方向性

協働を進めていく際の課題

実際に協働を進めていくには様々な課題があります。懇話会では、それぞれの委員の経験から、次のような課題があるという意見が出されました。

○ 協働を進めることについて団体内での理解が得にくい

区民と区との協働を進めていくためには、まず団体内の他のメンバーの理解を得ることが必要です。しかし、町会や商店街など、これまでも区とのつながりが強かった団体では、「協働とは何か」、「これまでの活動と何が違うのか」といったような質問が寄せられ、協働とは何かを説明しにくい、協働を進めることに対する理解を得にくい、という意見がありました。

○ 活動場所の確保が難しい

区民と区との協働による事業は、区民活動団体の事業であるのと同時に区の事業でもあるので、区民活動団体から見ると、区が活動場所を確保してくれると思いがちです。

しかし、区の立場からすると、協働のパートナーであっても特定の団体の活動場所を優先して確保するのは難しい面があるようです。そのため現状では、区民活動団体が自ら活動場所を確保せざるを得ず、苦労しているという意見がありました。

○ 信頼を得ることが難しい

区と協働している事実は、例えば企業がその団体を信用し、会って話を聞いてくれるようになるなど、協働のパートナーの区民活動団体に大きな社会的信用を与えます。

しかし、区からの信頼を得るまでには長い活動実績が必要であり、そのハードルが高いという意見がありました。

○ 区民活動に対する区職員の理解が進まない

区民と区との協働を進めていくためには、区民活動に対する区職員の理解を深めることが必要です。区民活動団体の特性や、実際の活動で直面する難しさを知ってもらわないと、考え方を共有して一緒に事業を進めていくことが難しい、という意見がありました。

○ 同じ想いをを持った区民活動団体を見つける機会が少ない

区民どうしの協働を進めていくためには、まず同じ想いをを持った区民活動団体と知り合うことが必要です。しかし、特に普段接する機会のない区民活動団体の場合、知り合って話をするきっかけが少なかったり、最初に話しかける相手が分からなかったりする、という意見がありました。

○ 区民活動団体どうしのお互いの活動に対する理解が不足している

区民どうしの協働を進めていくためには、協働する区民活動団体がお互いの活動をよく知り、理解することが必要です。特に、団体の特性が大きく異なる団体どうしの場合、信頼関係を作って考え方を共有するためには、まず相手の活動を見に出向き、相手の話をよく聞くことから始めた方がよい、という意見がありました。

協働を進めるための取り組みの方向性

懇話会では、委員一人ひとりの協働の実践経験や他自治体の取り組みを踏まえながら、協働を進めるために必要な取り組みについて様々な意見が出されました。それらをまとめると、次の2つの方向性が見えてきました。

○ 区民活動を支える基盤の整備

○ 町会・自治会、ボランティア団体・NPO 法人、商店街、企業、区など多様な主体による協働の推進

3 . 協働を進めるために

(1) 具体的な取り組みのアイデア

協働を進めるための取り組みとして、次のようなアイデアが出されました。

協働の方針	<ul style="list-style-type: none"> 「品川らしさ」を盛り込んだ協働のあり方、協働に取り組む上での前提など。 	
協働推進のためのメニュー	協働事業提案制度	<ul style="list-style-type: none"> 広く区民活動団体から、区民と区との協働事業の提案を受け、審査の結果採択された事業を実施する。 「区民提案事業」と「区が課題を提起する事業」の2種類。
	場の提供	<ul style="list-style-type: none"> 区や企業の施設の一部を提供したり、その情報を提供したり、区が家賃の一部を補助したりする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 予約せず打合せや交流に使える「フリースペースの提供」 (2) 事業やイベント等を行う「活動場所の提供」 (3) 活動の拠点となる「事務所スペースの提供」
	資金支援(基金)	<ul style="list-style-type: none"> 区が基金を設置し、区民や企業からの寄付を受け付け、区民活動への資金支援を行う。
	総合相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> 区民活動を行う(行おうとする)団体や個人からの相談に総合的に対応する。 区民活動団体やボランティアに関する情報提供、マッチング、協働の進め方や団体の運営方法についてのアドバイスなど。
	研修、相互学習	<ul style="list-style-type: none"> 区民活動団体の自律的な団体運営や経済的自立へ向けたアドバイス。 団体スタッフや区民向けの研修の開催。 企業で経営の経験を積んだ人材などを区民活動団体とマッチングさせるための相互学習機会の提供。
多様な協働のきっかけづくり	町会・自治会や企業とNPOとの協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会や企業とNPOとの協働を区がコーディネートする。
	区民活動団体がネットワークをつくるきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> 区民活動団体どうしが情報交換したり交流したりする機会(交流場所の設置や懇談会の開催など)の提供。 区民と区との協働事業を実施する際も、区民活動団体が他の団体とネットワークを作れるような進め方をする。

注)上記のアイデアのうち、「協働事業提案制度」については、平成20年度から区の事業としてモデル実施されました。

協働の方針に関する具体策のアイデア

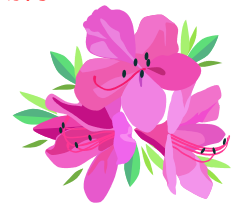
○ 協働の方針の策定

協働を進めるためには、お互いが理解すべきことがあります。そこで、協働のあり方や協働に取り組む上でお互いが守るべきことなど、前提となることがらをまとめ、誰もが共有できるように公表するとよいという意見が出ました。

特に、品川の地域特性を踏まえ、協働における品川らしさをまとめておくという意見もありました。一方で、他の地域での取り組みを踏まえると、区民活動団体どうしや区民活動団体と区との「対等性」をどのように盛り込むかを、よく考える必要があることが指摘されました。

<コラム 5> 協働の基本的な考え方に品川らしさを盛り込むことへの期待

IWC 国際市民の会は、日本語教室を開催しており、在日外国人に日本の文化と言葉を伝える活動をしています。品川区内には1万1千人の外国人が住民として住んでいるといわれており、30人に1人が外国人です。彼らは皆しっかりと働き、税金も払っています。また、子どもたちも真剣に勉強をしており、日本が好きになっていますが、そのことに日本人はあまり気づいていません。そんな中で、私たちは在住外国人と日本人が仲良く暮らす、豊かな地域社会づくりに貢献したいと、品川区をフィールドにして日々活動しています。



『品川らしさ』は品川区民憲章に謳われていると考えます。憲章では品川区は「国際都市東京の表玄関であること。」「文化と産業の発祥地」であり「文化の香り豊かな近代都市への発展を目指す」とあります。そのための約定として、

- 一、 住民は自由と平等を基本理念として、住民自治を確立し、区政に参加する。
 - 二、 人権を尊重し、人間性豊かな環境をつくる。
 - 三、 生活文化を発展させ、これを後世に伝える。
 - 四、 自然を大切にして、健康で豊かな区民生活を目指す。
 - 五、 自立と連帯の精神に支えられた、思いやりと生きがいのある地域社会をつくる。
- と謳う素晴らしい憲章です。これを自覚し実践に生かすことこそが「品川らしさ」に通じると思うので、これを具現化した協働の基本的な考え方が示されることを期待します。

(NPO 法人 IWC 国際市民の会 伊藤 美里)

(注)「である」を「ですます」に変更しました。

協働推進のためのメニューのアイデア

○ 活動場所や事務所スペースとして区内の空き施設の貸し出し

多くの区民活動団体にとって、事務所・活動場所・打合せ場所など、場所の確保は大きな課題です。そこで、区の施設の一部等を活動場所や会議室、事務所スペースとして貸し出すとよいという意見が出ました。

しかし、区の施設の活用だけでは不足です。そこで、企業などによる区民活動団体への施設の貸し出しを促進するためのアイデアとして、利用できる施設やその使い方の情報提供や、家賃の一部に対する補助を行うとよいのではないかとという意見が出ました。

一方、既存の区の施設についても、区民活動団体から見ると使いにくい面が多いことから、施設を使いたい区民が主体的に意見を出し合い、よりよい活用方法を検討する場を設けるのもよいとの指摘も出ました。

<コラム 6> 活用できる場についての情報提供への期待

私たちウーヴは「品川区を本であふれる街に！」を目標に活動を展開しています。その活動を広げるために、できるだけ多くの会場でおはなし会や語りの会を開催しようと計画し、実行してきました。



たとえば、毎月 23 日を「親子読書の日」と区が定めているところから、私たちも 23 日をターゲットに毎月 23 日に「語りの会」を開催すべく企画しました。

この開催で一番苦労したのが会場の確保です。特に区の施設でなくても、お貸しいただける場があればどこでもよいのです。特に施設の条件があるわけではありません。しかし、ウーヴが確保できる場はそれほど多くはありません。せいぜい、児童センターや文化センターなどになってしまいます。それも 23 日と限定してしまうとなかなか確保できないのが現状です。こんなとき、会場の確保に何らかの支援があればとつくづく実感しました。何もかもとは言いませんが、内容によっては優先的に会場の確保ができるようなシステムがあればと思います。また、それが難しいようでしたら活用できる場の情報提供などの支援があればよいと思います。

今回懇話会に参加して、様々な活動団体が様々な場を持って活動していることも知りました。このようなネットワークが出来ていくと、そのネットワークの中で場の相互乗り入れも実現していくのではないかと期待します。

(NPO 法人ウーヴ 山本 典子)

○ 区民活動に関する総合相談窓口の設置

協働を進めていくには、区民活動に関する様々な相談に応じたり情報を提供したりする案内役が必要です。そこで、区が区民活動を行う（行おうとする）団体や個人の様々な相談に総合的に対応する窓口を設置し、区民活動を行っているボランティア団体・NPO 法人等への情報提供、団体運営へのアドバイス、区民と区との協働についての相談を受け付けるとよいのではないか、という意見が出ました。

また、さまざまな区民活動団体が利用できる総合相談窓口とすることで、区民活動団体どうしの協働を進めるコーディネーター役になることも期待されます。この場合、コーディネート能力を持つ民間の人材を積極的に活用することも必要だという指摘もありました。

さらに、窓口の運営は、区が全て行うのではなく、様々な区民が参加して行うとよいという意見も出ました。ただし、このように窓口の運営自体を区民と区との協働で行う場合、運営に参加する区民活動団体のスタッフと区職員とをコーディネートする能力を持った人材の活用が必要だという指摘も出ました。

<コラム 7> 総合的に相談に対応する窓口への期待

私がメディア等で初めて「非営利活動(NPO 活動)」という言葉を目にしたのは 8 年前。これからの日本社会を変えていくのは NPO 法人と注目されていました。これまでの個人の自発的行為が基本であったボランティア活動から、



、社会に貢献する法人としてさまざまな NPO 法人が誕生していました。その公益活動を推進しようという法律が出来つつあったときです。

子育て支援活動を品川でやりたいと思い始めていた私は、好奇心も手伝ってこの「NPO 法人」を理解するために活動の母体を、法人格を得て出発することに決めました。その時、多くのことを学ばせてもらったのは全国の NPO 組織の中間支援センター「NPO サポート事業センター」です。全国にどのような NPO があり、資金はどのように生み出し、そもそも法的基盤はどこにあるのか、組織運営の方法など、実践と共にさまざまなことを教えていただきました。

そして、実際に地域に根ざした活動を始めた NPO 法人ふれあいの家 おばちゃんちは、品川区単位に支援センターがほしいと切実に思いました。区と協働したほうが

いま目の前にいる人のニーズに有効に応えられるという事業を、どこにどのように提案すればよいのか困りました。自力でネットワークを広げてきましたが、同じように他の組織も困っていました。その抱える課題はさまざまです。こうした課題に丁寧に応えていく民間レベルの地域支援センターの設立はもちろん必要ですが、行政の窓口も必要です。

区は社会貢献に意欲のある区民を育て、支援する役割を持っていると考えますので、NPO 活動総合窓口を早急に設置されることを期待します。区と民間の支援センターが協働することにより、地域に密着したきめ細やかな活動やネットワークが可能になると考えます。

(NPO 法人ふれあいの家 おばちゃんち 渡辺 美恵子)

(注)「である」を「ですます」に変更しました。

○ 区民活動に必要な資金の確保に対する支援

ボランティア団体・NPO 法人等の多くが資金確保を課題としています。そこで、区が基金を設置して区民や企業からの寄付を受け付け、区民活動への資金支援(助成)を行うことが考えられます。

また、区民活動団体から見ると、団体内部にお金集めをする人材がないことも課題であり、ある程度団体の規模が大きくなったら資金調達を管理できる人材を育てていくための支援(研修の実施など)が必要だという指摘もありました。



(注) コラム担当なし

区民どうしの協働とネットワークづくりに関する具体策のアイデア

○ 区民活動団体どうしが互いの活動を紹介できる機会づくり

区民どうしの協働を進めていくためには、まずお互いの活動を知り、理解することが必要ですが、そのような機会は少ないのが現状です。そこで、様々な区民活動団体が集まって互いの活動を紹介して理解し、活動のパートナーを見つけることができる、活動の展示会のようなものがないかとの意見が出ました。

また、この懇話会自体が区民活動団体どうしの出会いの場なので平成 21 年度もこれを継続したいといった意見や、あるいは区民活動団体がそれぞれの上手くいった事例を持ち合って情報共有するといったアイデアも出されました。

<コラム 8> 区民活動団体どうしが互いの活動を紹介する機会づくりへの期待

今回「区民と区との協働を進める懇話会」のメンバーの一員として、7回にわたる会議に参加したことにより、品川区内において、様々な形や考え方で活動しているグループが沢山あることを知りました。これらのグループが一堂に会し、情報交換やネットワークづくりを進めていく場づくりができるとよいのではと感じています。そして、その場づくりは、協働という傘のもとで、区民グループや行政、企業等が、お互いの人材交流や持てるノウハウを発揮することで、より活発な活動を展開できるものと考えています。



より多くの区民の方々が、“学びたいこと”や“役に立てること”など、本当にやりたいと思っていることをそこで見つけていただく。それらを楽しみながら、創ったり、支えることを協働事業として行っていくことにより、一人ひとりが日常生活のなかに、豊かな心と充実感を得られるきっかけづくりにもなると思います。

そのような意味から、区民グループ、行政、企業等が情報のネットワークを組み合わせながら、それぞれの活動を紹介する場を毎年開催することにより、区民の方々に協働に対する興味を持っていただき、参画意識を高めて、明るく住みよい街づくりの一助としていけると期待しております。

(NPO 法人エコタウンしながわ 増田 繁穂)

○ 普段あまり接点を持たない区民どうしが出会うきっかけづくり

一口に区民といっても町会・自治会、ボランティア団体・NPO 法人等、商店街、企業などさまざまですが、普段あまり接点を持たないケースも多くあります。

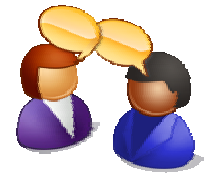
そこで、例えば「地域の安全・安心」といったようにあらゆる主体に関わるテーマを切り口にしたり、企業も含めて情報交換したりする場があると良いとの意見が出ました。

また、区が区民活動を支援する基金を設置した場合、その助成プログラムとして町会・自治会とボランティア団体・NPO 法人、商店街、企業等との協働を促進する、といったアイデアも出されました。

さらに、区民と区との協働事業を実施する際でも、例えば事業の実施を通して、事業を受託した区民活動団体が町会・自治会などとのネットワークを作ることができるような実施方法を選択するなどの工夫をするとよいという意見が出ました。

<コラム 9> 普段あまり接点を持たない区民どうしの出会いへの期待

懇話会に来ている活動団体の皆さんのご意見を聴いていると、山中いきいき広場運営協議会と同じく人材不足が大きな課題になっているように感じました。山中いきいき広場もパソコン講座や太極拳など、地域の方々に様々な文化・スポーツ活動の場の提供をおこなっていますが、参加する方々は増えても、運営を担っていただく人材が増えていきません。一団体が活動参加を呼びかけても、その場に足を運んできてもらうことが難しく、チラシや掲示板で呼びかけても、それほどの効果も期待できないのが実情です。



私の経験では、人集めは口コミが、一番効果があるようです。そのため、講師はその地域から招き、自主グループに声をかけ、グループの活動場所として山中いきいき広場を活用してもらい、まずは皆さんに場所を覚えてもらうことから始めました。場所を知ってもらおうと、口コミで広がっていくのです。仲間づくりをしたい人は沢山います。また、地域や社会の役に立ちたいと考えている人もいると思うのですが、どこに行ったらよいのか分からないのだと思うのです。

人材を発掘するには、まず自分達の活動をより多くの人に知っていただくことから始める必要があるのですが、地域活動に関心のある人と人材を求めている活動団体の出会いの場がないということだと思います。今回、懇話会の皆さんで企画した活動

団体紹介展などは、団体どうしの情報交換やネットワークづくりのよいきっかけづくりになると期待しますし、この他、様々な団体が力を合わせて、課題解決をめざすための出会いの場づくりを期待します。

(山中いきいき広場運営委員会 大八木 繁)

<コラム 10> 普段あまり接点を持たない区民どうしの出会いへの期待

荏原ほっとサロンは荏原4丁目にあり、ここを拠点に9つのボランティアグループが活動しており、私は高齢者が気軽に参加できる憩いの場づくりを行っている「なごみ」と「太極拳」の2グループの代表をしています。高齢者とかかわっていると、人との縁は見えないところで繋がっているのだと思うことがよくありますが、今回「懇話会」に参加して、新たな出会いを大事にしようという自分を改めて発見しました。



きっかけは第3回の「懇話会」を終えて帰宅したとき、同じ「懇話会」に参加していらっしゃるNPO法人IWC国際市民の会の伊藤さんからお電話をいただいたことから始まります。内容はNPO法人IWCが運営している日本語教室に通ってきている在住外国人の方々に品川音頭の踊りを教えてほしいというものでした。何でも福祉祭で踊るのだとか。私はすぐに快諾いたしました。日時を打ち合わせ、何度か練習に通ううち、外国人の方々の、踊りを覚えようとするそのひたむきさと、日本語教室の、品川音頭の歌詞を黒板に書きその由来を説明していらっしゃる先生方の姿に感動いたしました。そして、自分自身の中に違ったエネルギーが湧いてくるのを感じました。

福祉祭の当日は小雨の中、ステージの上で外国人の皆さんが、短期間で覚えられた品川音頭を上手に踊ってくださいました。私はなんとも言えないさわやかな満足感を感じました。

懇話会で色々なご意見がでてくるなか、私なりに何かの手がかりを模索している自分がいて、この場で出会えた縁を大切にしたいと思う今日この頃です。このような場をさらに広げていかれることを期待しています。

(荏原ほっとサロン運営委員会 飯田 静子)

<コラム 11> 普段あまり接点を持たない区民どうしの出会いへの期待

今回、「区民と区との協働を進める懇話会」に参加し、様々な活動団体と同じテーブルにつき、話し合いの場を持ったことは滅多にないチャンスでした。



昭和 14 年に当時の内務省の指導で町会組織が出来始めてから、営々とその運営がそれぞれの町会で行われてきました。区内も品川地区と荏原地区とでは環境も大きく違うし、組織も活動内容も似て非なるものがあります。また、隣どうしの町会でさえお互いが分っていないのに、ましてや、活動のテーマがはっきりしている NPO との協働など論外と考える町会がほとんどではないでしょうか。

私が属する平塚二丁目町会は、旧中原街道と東急池上線に挟まれた戸越銀座商栄会という商店街を真ん中に 1,500 世帯が集まった町会です。区立京陽小学校が町内にあり、町工場が点在する横町もあり、近所づきあいの活発な下町的な雰囲気のある街です。町会内には「京陽会」(ボランティアグループ)、「京友クラブ」(少年野球)、「京陽睦会」(神輿)、「寿会」(高齢者クラブ)、「商栄会」(商店街)、「ストレッチクラブ」(体操グループ)、「京陽グラウンド・ゴルフ倶楽部」等があり、町会会館を拠点に活動しています。これらのクラブのメンバーが町会の役員となり、様々な行事に参画し、自らのネットワークを広げ、楽しく活動しています。これが平塚二丁目町会の特色です。

しかし、品川区の町会全体を見渡すと、地域からも信頼されているにもかかわらず、厳しい局面を迎えている町会が増えてきています。運営を担う人材がいない、仲間集めが難しくなっている、会員が減っていくなど、課題が山積しています。その運営や活動を見ても、高齢者から幼児まで、日常のゴミ問題、会員の葬儀など、地縁だからこそ起こる様々な問題があり、町会だけで解決していくことは難しくなっている実情が見えてきます。そろそろ町会も意識改革に着手し、異なった角度で考えることのできる NPO 等との協働を進め、新たな組織の飛躍を考える時期にきていると思います。そのためにもお互いの胸襟を開いて話し合い、お互いが理解し合える場づくりを期待します。

(平塚二丁目町会 長坂 健一)

「である」を「ですます」に修正しました。

(2) 優先して取り組むことが期待される区の実り組みの方向性

協働を進めるための実り組みの中でも、特に「場の支援」と「相談窓口」に関する実り組みについては、区内のボランティア団体・NPO 法人等のニーズが大きいと考えられることから多くの具体的な意見が出ました。そこで出た意見は以下の通りです。

場の支援に関する実り組みの方向性

区民活動団体の多くにとって、事務所・活動場所・打合せ場所など、場所の確保は大きな課題です。そこで、下記のように使う目的に合わせた実り組みがあるとよいとの意見がありました。

ただし、このような場の支援の全てを区の施設で対応することは不可能ですので、企業や空き家などの活用も必要だという意見も出ました。また、その場合、場の支援への協力を呼びかけたり、場所の情報を提供したりする役割を担う専門的な機関が必要ではないかという意見もありました。

○ 予約せずに借りられるフリースペースの提供

事務所を持たない団体に対する、ちょっとした打合せに使うことができる場所の提供です。

○ 活動場所の貸し出し

講座やセミナーなどを開催するときの会場となる場所の提供です。区の施設だけでなく、土日に企業の会議室を提供するといった実り組みも期待されます。

○ 事務所スペースの賃貸

大きな空間を間仕切りして貸し出す「共同オフィス型」と、個室を事務所として貸し出す「部屋貸し型」があります。

(注) コラム担当なし

相談窓口に関する取り組みの方向性

協働を進めるためには、区民活動団体の活動が活性化していく必要があります。そのために相談窓口に期待される役割として、次のような意見が出されました。

○ 団体運営に関する相談・アドバイスやスタッフ向けの研修の実施

区民活動団体が活性化していくためには、自律的な団体運営や経済的な自立を目指すことが求められます。

そこで、相談窓口が団体からの相談を受けて団体運営についてアドバイスしたり、団体運営や事業実施等に必要な知識・ノウハウの研修を行なって団体スタッフの能力向上の機会を提供したりする役割を持つとよいという意見が出ました。

また、具体的なアドバイスのポイントとして、まずは団体のスタッフが「自団体の理念を自分の言葉で説明できる」ように促していくことが重要だとの意見も出ました。

<コラム 12> 総合相談窓口による相談・アドバイスや研修の実施への期待

行政のスリム化や区民の多様なニーズに応えるためにも、行政とNPOや市民活動団体・企業や大学・町会など民間機関との協働事業の推進の必要性・重要性は益々高まっています。しかし、協働についての認識は、一般区民はもとより行政の内部においても、高いとは言いがたい状況にあります。



そこで、重要になるのが総合相談窓口の設置であり、相談担当者の研修であるといえます。相談は、ただ話を聞いて終わりではなく、アドバイスや解決策、必要な情報を提供できてこそ、その役割を果たすことができます。そのためには、相談担当者は地域の市民活動団体・専門家・企業と行政とを結ぶコーディネーターの要素を持つ必要があります。また、地域のリソースや行政各部のシステムを熟知し、行政の縦割りの壁を飛び越える柔軟な思考を持ち合わせなければなりません。協働に関して何を聞かれても答えられるエキスパートが、求められるのです。

今、協働への期待が高まる中、まずは人を育てることが急務であるといえるのではないのでしょうか。

(NPO 法人パルレ 坪井 久美子)

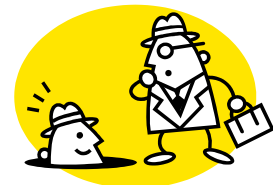
○ 区民活動に参加する人材を発掘する講座の開催

地域には、企業で経営の経験を積んだ人材など、区民活動団体の運営に参加することが期待される人材が多くいると考えられます。

こうした人材を発掘し、区民活動団体がうまく能力を発揮できるようにするための具体的な取り組みとして、例えばボランティア団体・NPO 法人等の現場での体験を交えた講座や地域の課題を発掘・研究する地域学習講座を開催するとよい、というアイデアが出されました。

<コラム 13> 区民活動に参加する人材を発掘する講座への期待

区民活動は言うまでもなく、性別、年齢、知識、経験などの障壁はなく、誰でも参加できますが、自発的な意思がなければなかなか入り込めない性格があります。現実問題として、区民活動に積極的に参加しようとする区民は少数派であるように思えます。特に現役世代男性の多くは区民活動を考える余裕もなく、児童～学生、後期高齢者にとっても区民活動への参加は一般的には困難な事情が多いです。



そんな中、現役引退したてのヤングシニアは区民活動要員の最適任世代と言えるのではないのでしょうか。現役時代に培った知識、経験は多様な区民活動の極めて有用なエキスです。ただ、現役引退世代の多くは、区民活動に関心を持ってない状況で日常生活を送っていたため、活動に入る手がかりが無いのが実情です。

品川区には多くのボランティア活動団体が存在しますが、どの団体も大きな課題として人材不足を挙げています。何かしたいが、何をやったら良いか分からない多くの人材を、人材不足に悩んでいる活動団体、或いは新しい活動体発足に繋げられる適切な人材発掘の仕掛け作りが出来れば、品川区の活性化に大いに貢献できるのではないのでしょうか。

(しながわシニアネット 土橋 弘幸)

○ 企業が参加できる区民活動や支援メニューの情報提供

企業は区民活動の重要な担い手であり、企業にも区民活動に参加したいというニーズはありますが、区民活動についての情報の不足などで、なかなか行動に移せない現状にあります。

そこで、相談窓口が企業の中にある気持ちや動きを引き出し、区民活動団体につなげる役ができるかという意見が出ました。

具体的には、企業が参加することができる区民活動メニュー（例：ボランティアによる地域清掃事業、地域の区民による花壇の管理事業など）をとりまとめ、企業向けに情報提供するというアイデアが出ました。

また、企業は区民活動を支援する方法をたくさん持っているものの、それを区民活動団体に知らせる手立てを持っていません。したがって、企業が実施できる支援メニュー（例：備品の提供、場所の支援、社員の派遣など）を相談窓口がとりまとめ、区民活動団体向けに情報提供するというアイデアも出ました。

<コラム 14> 総合相談窓口による企業向けの情報提供への期待

当社では従前より災害復興支援や地域社会との共存を目指した社会活動を行っております。近年、こうした活動をCSR活動として取り組むべく、社内体制を整備し様々な議論を重ねながら実行に移しております。



CSR活動を行う際には「我々に出来ることは何か？」が起点となりますが、他の企業のCSR活動実績や地域活動団体の困っていること、地域社会が企業に期待していること、等の基礎的情報が不足しており、また、どこで公正・平等な情報入手が出来るかが分からず、判断に迷うことが多々あります。

今回、本懇話会に参加することで、多くの活動団体や自治会で実施されている様々な活動に触れることが出来、また同時にそれぞれに多種多様な課題や問題等があること知りました。今後、この懇話会のような、企業+活動団体+町会・自治会間情報交流窓口の役割を品川区に期待します。

（コベルコ建機(株) 奥田 耕治）

4 . 懇話会への参加を通して得られた成果

(注)第6回懇話会の意見を踏まえて加筆しました。
次回のご意見を踏まえ、さら
らに加筆・修正します。

(1) 多様な協働とはどのようなものを共有できた

最初は区民と区との協働に絞って検討を始めましたが、回を重ねるにつれて、多様な協働がどのようなものかについても意見交換を積み重ね、考え方や具体的な取り組みを共有することができました。

一方で、懇話会委員が各自の団体に戻って説明しても理解されにくいという難しさも分かり、様々な区民活動団体が集まってお互いを知り、共有認識を持つことの重要性が分かりました。

(2) 普段接する機会が少ない団体の活動や想いを知ることができた

懇話会での意見交換を通して、普段接する機会が少ない区民活動団体の活動内容や、どんなことを考えて活動しているかを知ることができました。

文字の情報だけでは「どんなことを考えて活動しているのか」「これからどんなことをしようとしているのか」といったことが分かりにくく、団体どうしの信頼関係も作りにくいですが、直接会って話をすることで良く知ることができました。

(3) 具体的な取り組みにつながった

多様な協働を進めていくために、考え方や支援のあり方を検討するだけでなく、懇話会の参加者にできることからどんどん具体的な行動に移していこうという想いも強くありました。

そうした想いもあり、懇話会で知り合ったことをきっかけに、別の区民活動団体の事業に参加したり協力したりといった具体的な取り組みも実現しました。

5 . 多様な協働をさらに進めていくために

(1) 協働を進めていくために必要な環境づくり

協働を進めていくためには、前述した、区民活動団体による取り組みを支援するための施策の実施や機関の設置とは別に、この懇話会のように、さまざまな区民が集まり、「協働のあり方」について具体的な意見交換をする場が必要です。

(2) 区民活動団体がお互いを知る場づくり

区民と区との協働をさらに進め、区民どうしの協働を広げていくためには、区民活動団体（特に、普段接する機会が少ない団体）が、お互いの活動や団体を知り、相互に理解を深めることができる場づくりが必要です。

(3) 「品川らしい」協働のあり方の模索

今年度の懇話会では「品川らしさ」を品川独自のものと考え、答えが得られたわけはありませんが、具体的な取り組みの結果として表れてくるものという意見と、元からあるものという意見が出ました。

今後、多様な協働を推進していく中で、折に触れて具体的な取り組みを振り返りながら、品川における協働の特徴である「品川らしさ」を求めていくことが期待されます。

(注)「品川らしさ」が一人歩きしないように配慮した方が良いという意見を踏まえて加筆・修正しました。

おわりに

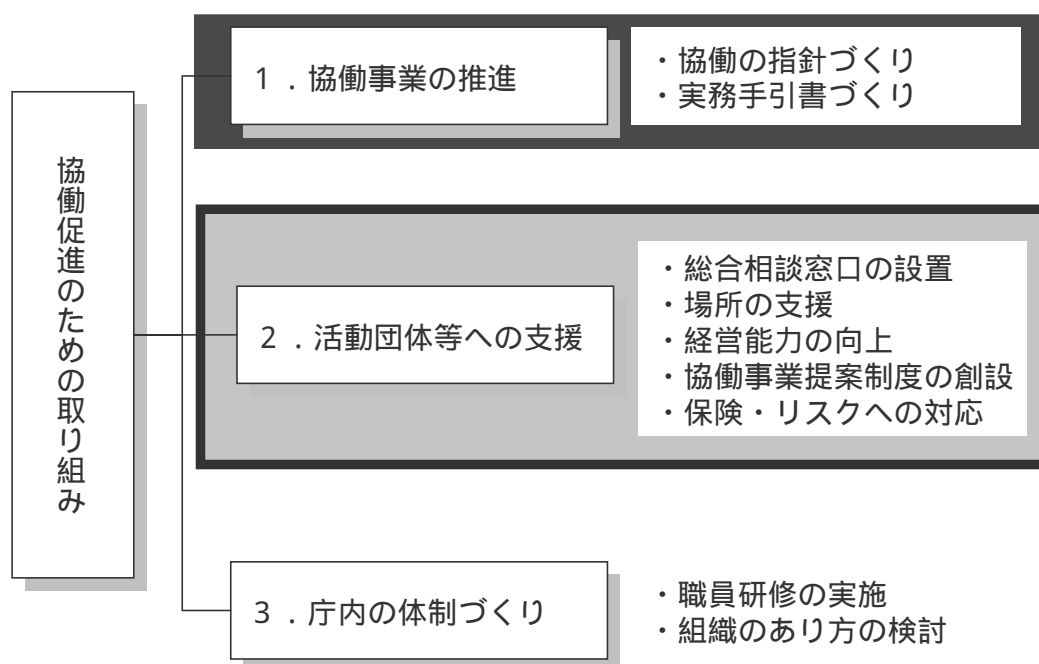
- ・1頁程度
- ・服部先生に執筆依頼

参考資料

(1) 区職員による検討の経緯

協働事業を推進するための方策の検討を目的として庁内検討会議を設置しました。さらに庁内検討会議のなかに、実務担当者で構成する作業部会を設置し、具体的な検討を行いました。

- 検討期間
 - ・平成18年4月～平成20年3月
- 検討内容
 - ・協働事業についての全庁実態調査の実施
 - ・主な協働事業の事例分析
 - ・ボランティア団体・NPO法人等アンケート調査の実施
 - ・他の区・市の事例分析
 - ・実務手引書の作成
- 得られた成果
 - ・実務手引書をもとに職員研修を実施
 - ・検討の結果、協働促進のための取り組みを次のように整理



(2) ボランティア団体・NPO法人等アンケート調査

調査の概要

品川区にボランティア登録している団体や区内に事務所のあるNPO法人を対象に、以下の要領でアンケート調査を実施しました。

図表 2 調査の概要

目的	品川区内に所在するボランティア団体・NPO法人等の活動実態、および、区との協働の実績や意向等を把握するためにアンケート調査を実施した。
調査対象団体	品川区内に所在するボランティア団体・NPO法人(区が把握している主な団体)合計251団体への悉皆調査
配布・回収方法	郵送による配布・回収(一部、担当課より手渡しによる配布・回収)
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品川区に所在している特定非営利活動法人(154団体) 平成19年5月21日～6月1日 ・ 上記以外の調査対象(97団体) 平成19年6月4日～6月15日
回収結果	回答数132(回収率52.6%) *回収票は全て有効回答票

図表 3 調査対象団体の内訳

調査対象・発送先団体			団体数
特定非営利活動法人 (NPO法人)	品川区に所在	東京都認証	112
		内閣府認証	42
	区外に所在するが、区と関係のある団体		4
ボランティア団体 (任意団体)	品川ボランティアセンター登録団体		25
	各課にて把握している団体(注)		68
合計			251

(注)各課にて把握している団体の中で、特定非営利活動法人以外、品川ボランティアセンター登録団体以外であり、かつ、団体の活動メンバーが10名以上の団体を対象としました。

図表 4 回答団体の組織形態 (N=132)

組織形態	回答数	割合 (%)
NPO 法人 (手続中を含む)	73	55.3
任意団体	56	42.4
企業 (職員有志の活動を含む)	3	2.3
合計	132	100.0

(注)「企業」には、企業に認知された活動(例・企業の清掃班)と、社員有志の活動の両方を含みます。

調査結果のポイント

○ 公共サービスの分担への関心は大きい

公共サービスの分担については「できることがあれば、あるいは声をかけてもらったら検討したい」と回答した団体が、任意団体の 53.6%、NPO 法人の 45.2%。

○ 人材の確保、行政との連携・協力、場所の確保が課題

活動・事業上の課題で回答が多かったのは、「人材の確保」と「行政との連携・協力」。「人材の確保」を挙げたのは任意団体、NPO 法人ともに 46.6%であり、「行政との連携・協力」を挙げたのは任意団体の 42.9%、NPO 法人の 57.5%。

組織運営上の課題として回答が多かったのは、任意団体、NPO 法人ともに「会員を増やす」、「主体的に動いてくれるスタッフの確保」、「事務所や活動場所の確保」。

「会員を増やす」を挙げたのは任意団体の 48.2%、NPO 法人の 63.0%、「主体的に動いてくれるスタッフの確保」を挙げたのはNPO 法人の 32.1%、任意団体の 49.3%、「事務所や活動場所の確保」を挙げたのはNPO 法人の 19.6%、任意団体の 32.9%。

○ 利用したい支援策で多いのは相談や情報提供の窓口、資金助成制度、活動スペース

任意団体では、「ボランティア活動をしたい人を紹介してくれる情報提供とマッチングの窓口」(人に団体の 39.3%)、「資金助成制度」(同 33.9%)、「行政と連携・協力する際に様々なことを相談できる窓口」(同 32.1%)。

NPO 法人では、「資金助成制度」(NPO 法人の 50.7%)、「行政と連携・協力する際に様々なことを相談できる窓口」(同 45.2%)、「市場価格よりも低価格で賃貸することができる事務所、活動スペース」(同 34.2%)。

(3) 「区民と区との協働を進める懇話会」委員名簿

本懇話会は、町会、ボランティア団体・NPO 法人等、企業、商店街、有識者のそれぞれから、区民と区との協働の実践経験のある以下の委員で構成しました。

	団体名	委員名
座長	学識経験委員	立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授 中村 陽一
副座長	学識経験委員	社会起業家研究ネットワーク CAC 代表 服部 篤子
委員	平塚 2 丁目町会	町会長 長坂 健一
"	東品川一・三町会	町会長 戸川 五郎
"	山中いきいき広場	運営協議会会長 大八木 繁
"	しながわシニアネット	代表 土橋 弘幸
"	荏原ほっとサロン	運営委員会委員長 飯田静子
"	NPO 法人 パルレ	理事長 坪井 久美子
"	NPO 法人 コアネット	理事・品川区連携担当 村山 勝彦
"	NPO 法人 エコタウンしながわ	事務局長 増田 繁穂
"	NPO 法人 ふれあいの家 おば ちゃんち	理事長 渡辺 美恵子
"	NPO 法人 IWC 国際市民の会	理事長 伊藤 美里
"	NPO 法人 ウーヴ	理事長 山本 典子
"	五反田商店街振興組合	近代化推進委員長 杉江 烈 <small>たけし</small>
"	コベルコ建機株式会社	総務部総務グループ アシスタントマネージャー 奥田 耕治
"	品川区社会福祉協議会	事務局次長 黒田 幸子
"	品川区	地域活動課長 中山 武志
"	"	産業振興課長 金子 正博
"	"	行財政改革担当課長 久保田 善行

(4) 「区民と区との協働を進める懇話会」各回の検討内容

本懇話会の各回の開催日程と検討は以下の通りです。

図表 5 各回の開催日程と検討内容

	開催日程	検討内容
第1回懇話会	平成20年5月26日 10時～12時	<ul style="list-style-type: none"> 委員紹介 懇話会で検討する「協働」の範囲について
第2回懇話会	平成20年6月27日 13時30分～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> 協働を進めるために必要な区民活動支援施策について
第3回懇話会	平成20年7月25日 13時30分～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> 品川区の協働事業への取り組みについて 施策の体系(案)について
第4回懇話会	平成20年8月29日 13時30分～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> 協働を進めるための具体的な施策(案)について
第5回懇話会	平成20年10月17日 14時～16時	<ul style="list-style-type: none"> 懇話会報告書骨子(案)について
第6回懇話会	平成20年12月15日 12時30分～14時	<ul style="list-style-type: none"> 報告書原案について
報告書検討会	平成21年1月30日 13時30分～15時	<ul style="list-style-type: none"> 報告書原案について
第7回懇話会	平成21年3月 日 時 分～時 分	<ul style="list-style-type: none"> .

